

金曜コラム - コーチングとティーチング:過去と現在と未来 イム・ヨンソク(忠北大学校体育科教授)

私は忠北大学校体育教育科でスポーツ教育を教えている。人権、ジェンダー、疎外などをテーマに研究を進めている。私は約 90,000 人余りの大学教員の一人である。特別なことのない私に最近、学生選手に関連するインタビュー要請がしばしば入ってくる。11 年間学生選手として生きてきたからなのだ。主に学生選手に関連する問題がほとんどである。今回のインタビューのテーマは、コーチングの過去と現在、そして未来についてだ。

▲私が受け、行なったコーチング:過去

11 年間バスケットボール選手生活の間、転校を 3 回した。そのおかげで他の同期よりも多くの運動部指導者に会った。「尊敬と憎悪」、「希望と絶望」、「愛情と差別」、全く別の意味の単語。11 年間、家族よりも多くの時間を共にした 11 人の運動部の指導者を私はそれぞれ覚えている。20 年以上前、私がバスケットボール選手だったときは「会う」ことは日常であった。指導者だけでなく先輩に合わない日には、なぜか分からない不安感に襲われたほどだった。負傷のため 11 年間の学生選手生活をやめた後、慶北の大学で指導者生活を始めた。何の準備もなしに始めた指導者の生活。11 人のバスケットボールコーチを通して学んだ言い方、指導方式、行動様式は、私の 1 年間の短い指導の生活に大きな影響を与えた。私は私の弟子たちにもどのように記憶されているだろうか?

▲私が見たコーチング:現在

実際、コーチングに関するインタビュー要請が入ってきたときは大きな負担があった。エリート体育の現場を去ってから 20 年以上。短い指導経歴、落ちている現場理解度よりも心配されたこと。まさに私が経験し、行なった事と勉強して研究したことの差異だった。忘れそうになると出てくるエリートスポーツ界の暴力、性暴力の問題と学生選手の学習権。ほとんど運動部指導者の問題に帰結される問題である。程度の差はあるが 20 年前と似ている。実際、運動部の指導者と関連した問題は慎重にする必要がある。指導者→選手、先輩→後輩と引き継がれ強化されている運動部の社会・文化的構造に照らしてみると、彼らも被害者である可能性があるからである。

▲望まれるコーチング:未来

1500 年代のコーチは、ハンガリーで馬車を運転する御者を意味した。客を安全に、願う場所に案内することが彼らの役割である。300 余年後、英国でコーチは家庭教師を意味した。この時代のコーチは他人に様々な支援を与える人だった。2018 年のコーチは様々な社会の文脈と流れに沿って、それぞれの分野で多様に使われる。芸能、恋愛、学業、コミュニケーション、インタビュー、発表など様々な分野のコーチが登場した。スポーツの分野ではスポーツ指導者をコーチと呼ぶのが一般的な概念である。

一般的にコーチング (coaching) は技術の伝授だ。ティーチング (teaching) は知識の伝達である。社会的にコーチングは運動を教え、ティーチングは教育を行なうことと理解される。スポーツの分野に限定すると両方の単語の共通点は身体活動の内容 (physical activity content) に基づいて、誰かを教える教育行為だ。過去のコーチの概念と一緒にこれを解釈しようとしたら、学習者に助けを与えたり、適切な分野に案内しよ

うとする実践的な教育行動である。

▲「コーチング現場を改善するために何が必要でしょうか？」

私が覚えている最後のインタビューの最後の質問。二つのカテゴリに分けて答えた。まず投資の拡大である。指導者の給与と教育（再教育）への投資に分けることができる。給与の問題は社会の構成員すべてが共有する問題の一つだ。給与引き上げだけを意味するわけではない。少なくともこれら教育的脈絡で目的のコーチングを行なえる期間の保証を意味する。教育と再教育への投資は2番目の答えである指導者の認識の転換と脈を共にする。

私が会った運動部の指導者の中には種目に関する専門知識だけでなく、学問的に素晴らしい人が多い。激しい現場経験を通して彼らが獲得した経験知識は学問的に数年間努力してこそ到達できる境地であった。惜しい点は、自分がどのような部分ですごいのか知らないということだ。彼らの実践的な知識が様々な理論、方法、戦略と共に学生に伝えられていない事に対する物足りなさでもあった。

自分のコーチング能力をさまざまな脈絡（つながり）と連携して教えることができる能力。指導者自ら認識の転換が必要である。引き継がれる経験的コーチングの限界を越えなければならない必要性でもある。コーチングに関する専門知識の拡張は、長期的な観点から自分が希望する指導をすることができる土台として作用するものだ。

01 スポーツソウル 2018.9.18

【 ガラパゴス島に橋を架ける！...体育文化の変化 】

韓国社会で体育は「ガラパゴス島」と呼ばれます。慣行と特殊性の根があまりにも固着されている上、変化への抵抗も少なくないからです。だからいつも体育は市民社会の目の高さ大きなギャップを見せ、社会と遊離したまま古いパラダイムに首をつなぎとめてきました。

体育が「ガラパゴス島」と見られていたのは、多様な価値を圧倒する巨大な談論一つがとぐろを巻いていたから可能でした。他者との対決でひたすら勝たなければならないという勝利至上主義がまさにそれです。圧縮成長の時代に体育が国威宣揚の道具として活用され、体育の本質でありながらも多様な価値は抑え込まれました。スポーツ国家主義（state amateurism）の美名の下でプロセスよりも結果にこだわる奇形的な文化は取るに足りないように思っていたのは事実です。しかし、公正さとフェアプレーを基にしたスポーツマンシップよりも優位に立つた機械的な成果主義は、ある瞬間から韓国体育の先進化に決定的な障害になってしまったのです。時代精神と破裂音を吐き出した成績至上主義は、体育の価値が中心部に進入するブレーキをかけ体育の外縁拡張にも大きな障害になりました。

そのようなスポーツの奇形的な文化が最近亀裂の兆しを見せており喜ばしいことです。結果より過程の重要性、より深く掘り入ってみると時代精神である公平性が体育文化の中心値として浮上し始めたからです。政府主導で突然推進した2018平昌冬季オリンピック女子アイスホッケー、単一チームの構成で出てきた国民的反発は、組織と集団に抑圧されていた自我の噴出であり、さらに体育でのプロセスの重要性を悟らせてくれた起爆剤になりました。これまでスポーツ界でなごりにされたプロセスの重要性は、この前幕を下ろした2018ジャカルタ・パレンバンアジア大会でも間違いなく浮かびました。並んで金メダルを獲得出した野球とサッカーがはっきりした悲喜こもごもを描いて、このような国内体育文化の変化をそのまま証明しました。選手選抜の過程で陰口が多かった野球が金メダルを獲得したにもかかわらず、冷遇を受けたのはもちろん

ん、アジア大会の後に再開されたリーグ興行でもその余波がそのまま続いています。成績がすべて覆ってくれるという過去の体育フレームはもう作動しないという事実は、体育文化の決定的な変化を立証したものです。

これまでの体育はあまりにも多くのことを国民にプレゼントしました。その何にも変えることができない国民的誇りという精神的な価値は、体育の偉大さを胸に感じさせてくれました。その結果、国際大会での競技力は体育の最も大きな価値になり、体育の多様な価値を圧倒して支配するに至りました。国際大会の成績にこだわりながら、競技力を引き上げる非民主的であり非人権的な手段でさえも正当化されたりもしました。しかし、時代は変わりました。新しい跳躍のためにはもう過去のパラダイムは有効ではないという社会的合意が導出されました。もちろん過去の政策を現在の視角で裁くのはいけないだろうが、時代と社会の変化を適切に反映できないなら、新たに変えるのが正しいです。

永久不変の唯一の真理は、すべてが変わるという事実です。体育は残念ながら時代と社会の変化に鈍感でした。いや、目をぎゅっと閉じていました。いつも結果だけに執着していた韓国体育の古い枠を変える時になりました。構造とシステムを変えることも重要ですが、何よりも意識の変化が先行しなければ改革は持続可能な動力を得ることができません。そのような点で、最近の体育文化の変化は両手を挙げて歓迎すべき良い兆候です。ついに「ガラパゴス島」にも橋が架けられています。

<https://sports.news.naver.com/general/news/read.nhn?oid=468&aid=0000427849>

02 アジアの経済 2018.9.20

【 南北オリンピック共同開催... WSJ “ヘラクレスの挑戦に匹敵する難題” 】

ウォールストリート・ジャーナル (WSJ) は 19 日 (現地時間)、南北が 2032 年夏季五輪の共同開催を推進すると明らかにしたことと関連し、ヘラクレスの挑戦 (herculean challenge) に次ぐ難しいものになるだろうと予想しました。北朝鮮の劣悪な経済状況、交通などのインフラ施設不在、国際的なレベルに満たない宿泊施設、劣悪な人権実態により、オリンピック誘致が幾重にも重なった山奥にあるということです。

WSJ は、韓国と北朝鮮が数年間にわたって一緒に準備するが、実質的に韓国が国際オリンピック委員会 (IOC) などを説得する宿題を抱える事になると予想している。南北が共同でオリンピックを開催することが持つ意味と利点を説得するのは最終的に韓国の役割ということです。

南北オリンピック共同開催の最大の課題は、北朝鮮が国際社会から制裁を受けているということです。WSJ は、国際社会の制裁などによりオリンピック開催にかかる費用の用意は難しいと予想しました。韓国銀行の推定によると北朝鮮の国民総所得は 320 億ドル (35 兆 9000 億ウォン) です。ロシアが 2014 年ソチ冬季オリンピック当時注ぎ込んだ 500 億ドルにも満たない規模です。韓国も平昌冬季オリンピックを準備しながら 130 億ドルを執行しました。南と北と一緒に開催するからには北朝鮮がある程度負担を負わなければならないが、現在の経済状況だけを見れば北朝鮮の負担は相当なものです。

負担を減らす方法は他の五輪開催と同様に企業の後援を受ける道だけです。南北も共同でオリンピックを開催しようとしたらサムスングループ、ビザカード、マクドナルドなどの多国籍企業の後援を受けなければなりません。しかし、ここで対北朝鮮制裁が伏兵になります。現在、北朝鮮が受ける国際社会の対北朝鮮制裁によると、企業は北朝鮮に投資することができません。WSJ は 2032 年のオリンピックの開催場所が決定される 2025 年までに対北朝鮮制裁が維持された場合には、国連安全保障理事会と米国の制裁猶予措置があ

ってこそ多国籍企業の後援が可能と予想しました。それまでに企業のオリンピックを後援できるほど対北制裁が緩和するとか、国際社会からオリンピックの後援に限り制裁の例外を認められなければなりません。北朝鮮の人権問題も障害物になります。北朝鮮の政治犯収容所などは、これまで国際社会の批判を受けてきました。宗教の自由が制約されている部分も国際社会の支持を困難にしています。特に体制宣伝の手段としてオリンピックが悪用されるという指摘も避けることができません。1936年にドイツのベルリンオリンピックがその代表的な例です。ドイツのナチスはオリンピックを体制宣伝の場として活用したことがあります。同じことが繰り返されないという説得が必要な部分です。

まず IOC は南北共同開催推進について肯定的な反応を見せます。IOC は 2032 年の南北共同開催と関連して「スポーツが再び朝鮮半島と世界の平和に貢献することができる」と明らかにしました。実際、南北間の最近の緊張緩和、米朝トップ会談などの扉がみな平昌冬季五輪、北朝鮮参加決定から開始されたという点は IOC を鼓舞しました。

WSJ は南北オリンピック開催の最後のカギは米朝間の非核化交渉になると見ます。対北朝鮮制裁緩和、北朝鮮の経済開放、北朝鮮のオリンピック開催などはすべて、非核化交渉の結果にかかっているという事です。

<http://www.asiae.co.kr/news/view.htm?idxno=2018092009195830225>

03 エムスプールニュース 2018.9.20

【 大韓体育会、“スケート連盟管理団体指定”全会一致の決定 】

大韓スケート競技連盟が管理団体に指定されました。

9月2日午後、ソウル松坡区オリンピックパークテルで開かれた「大韓体育会第19回理事会」で大韓体育会は、一度留保していたスケート連盟管理団体の指定を満場一致で決定しました。

理事会に出席した体育関係者は「7月9日の17回理事会の時とは違って、全体的な雰囲気は”スケート連盟を管理団体として指定しなければならない”という側だった」とし「大論争せずに全員一致で”管理団体指定”が決定された」と言いました。

5月23日、文化体育観光部は「スケート連盟特定監査結果」の発表で、「特定の人物がスケート界で不当な影響力を行使し、権限もなくスケート連盟業務に介入した疑惑が事実で明らかになった」とし「これまでスケート連盟が異常な運営をしてきたからには体育会にスケート連盟を管理団体として指定することを勧告する」と明らかにしました。

しかし、大韓体育会は7月9日の理事会で文体部の勧告を受け入れていません。いくつかの冬季スポーツ界の役員がスケート連盟の管理団体指定に反対し、大韓体育会のイ・ギフン会長が「サムスンがスケートの発展に大きく寄与した」と文体部の勧告を拒否してから「留保」の決定を下したのです。

大韓体育会はその後も「スケート連盟の管理団体指定に消極的」との声が聞こえていました。では、どうして大韓体育会がこれまでの態度を変えてスケート連盟を管理団体に指定したのでしょうか。

大韓体育会理事会の理事は「大韓体育会が構成した”スケート発展TF”から”管理団体指定が妥当である”という意見が多かった。自分たちが構成したTFでこのような結論が出てきただけに、再び管理団体指定に反対する名分がないと判断したと聞いている」とし「共に民主党のソン・ヘウォン議員をはじめとする政界と若いスケート人連帯を中心としたスケート人が何度も”スケート界発展のためには管理団体の指定が必須”と意見を述べたことも、今回の決定に大きな役割を果たしたと聞いている」と伝えました。

文体部関係者は「管理団体として指定されると、すぐにその団体の役員が解任される。代議員総会、理事会、事務局など該当競技団体のすべての権利と権限が停止される」とし「しかし、スケート連盟が管理団体として指定されたとしても、選手の合宿と予算支援は何も変化がないので選手と指導者は全く不安感を感じなくても良い」と強調しました。

長い長い暗黒のトンネルを通過して「管理団体指定」でスケート連盟は、本格的な変化の第一歩を踏み出しました。

http://www.mbcsportsplus.com/news/?mode=view&cate=33&b_idx=99881009.000#07D0

INFOMATION

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 1485-3 スンジョンビル 305 号

체육시민연대 서울시 서초구 서초동 1485-3 승정빌딩 305 호

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net

ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳 : 佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jrlfgep@jarl.com